
ナルト 最強者

未来ガジェット

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ナルト 最強者

【Nコード】

N8247Q

【作者名】

未来ガジェット

【あらすじ】

突然、真っ白な世界に行かされた俺・・・そこには神様がいた。

好きな能力をつけて転生させてくれるってんで俺は大喜び

最強になった俺がナルトの世界でどう自由にすごすのか

始めての作品です。かなり駄文です。ガチで駄文です。

「」のそこ以外はあるまり慣れてないから場面状況とか理解できないかもしれませんのでご了承ください。

ブログ（前書き）

はじめての投稿ですのでかなりの駄文です。
でも自分の妄想をどうにか文書化したのでどうか楽しめたらうれしいです。

プロローグ

あつ・・・く・・・ん

・・・どこよこ・・・

「やつと目がさめたか・・・」

目をやるとそこには白いくて長いひげをした老人がいた

・・・俺にはそんな知り合いはいなかったと思うんだけど・・・
な・・・

「まつ、貴様の知り合いに神はおらんじやろう」

！！！！

「もしかして心読まれた・・・？」

「もちろんじゃ。なんせわしは神じゃしの。ホッホッホッ」

・・・え？神ってガチで・・・？

「ガチじゃ」

「心読むんじゃねえ！！・・・で、その神が俺になんの用？もしかして転生パターン？」

高校1年のときにたまたま見つけたSSを呼んで、そこからかなりはまってしまい、その日からずっと授業中や風呂のときや寝る前などには妄想をふくらましていた。

「そうじゃよ。君の名前はたしか橘雅也じゃったよな？」

「え？ガチで？ほんとに？つかなんで俺の名前知ってんの？」

「君はガチを使うのが好きじゃのお・・・本当じゃよ。名前ことは神じゃからじゃ」

実はサ〇ーウォーズを見てから結構「ガチで？」って使うのが頻繁になっていた

「やったー！！！！じゃあさじゃあさ、好きな能力とかもくれるんだよね？」

「いいぞい」

おっし！！やべえ！！！！ガチでテンション上がったよこれ！！！！今まで生きててよかったあああ！

さて、どんな能力にしようかな・・・とりあえず必須なのはアクセラレーターのベクトル操作とレールガン 능력でしょ。あとは・・・あ、そういえば転生場所とかどうなってんだろ？

「ねえ神様」

「なんじゃ？」

「転生先も俺が決めていいんだよね？」

「おおいいぞ」

おっし！さて、どこにしようか・・・とりあえず候補はゼロ魔とワンピースとナルトなんだよね。今までワンピースの妄想してて思ったのはベクトル操作とレールガンを使ったら悪魔の実2つ食ったと思われるからちよつとあれだったんだよね・・・まあせっかくの転生なんだし別にいかとも思うんだけどやっぱりあれ海賊じゃない？チートの俺だったら最強になれるわけだから海賊らしいことできるんだけど・・・せっかくレールガンの能力手に入れるんだからさ、あれやってみたいじゃん。あれ、砂鉄の剣のやつ。船の上じゃ砂鉄はとれないからね・・・だからこのさいワンピースはやめておこうか・・・

あとはゼロ魔とナルトんだけど・・・ゼロ魔でベクトル操作したら異端だよ・・・異端審問会ひらかれそうだしな・・・でも開かれても逃げれるから問題ないんだけど、平穩が崩れるのなもの・・・だから、ナルトにしようか！ナルトならベクトル操作は結継限界でごまかせるし、レールガンも雷の性質変化っていえばいいしねw
よし！ナルトにしよう！

「あ、神様？転生先はNARUTOの世界にしてほしいんですが大丈夫ですか？」

「ああ、問題ないぞ。で、能力はどうするんじゃない？」

「能力は、とある世界のベクトル操作とレールガンのやつで。レールガンのやつはたしかエレクトリマーとかそんな感じだったんだけど分かります？」

「ああ分かるぞい。第1位と第3位の能力じゃろ？」

あ・・・神様でも知ってるんだね・・・

「そうなんですけど、たしかアクセラレーターのベクトル操作ってベクトルの大きさってかえれましたっけ？あんまり覚えてないんですよ・・・」

まあでもどっちにしろ俺の欲しいのはベクトルの大きさも変えられるやつね。

あとは、六式と幻術を使えるようにしてください。

ちなみに幻術はイタチが使ってたような精神世界？的なところにつれてけるやつね。精神世界での3日は現実世界での3秒にしてください。

あ、あと普通の忍術は分身の術ができる程度でいいです

ちなみに、チャクラはもらう能力と別回路にしてください。つかもらった能力のデメリットは無しでお願いします。

あとは、、、、まあとりあえずそれぐらいですかね」

「なんとまあ・・・すごいのお・・・じゃあ欲しい能力は、ベクトル操作（自分につかって浮くこともできるし、皮膚にふれて血液が逆流するように操作したら逆流させて殺すことができる）レールガンのやつ（すいません・・・名前知らない・・・）」

六式

幻術

を、デメリット無しで使えるようにすること、チャクラは分身の術などが使える程度・・・

ほんとうにチャクラが少なくてよいのかの？影分身とか性質変化の術も使えるのじゃぞ？」

「おおいよいよ。そっちのほうが面白いしね。」

「まあいいじゃろ。では、存分に楽しむんじゃぞ」

「ありがとお」

[illegible]

第1話（前書き）

次もがんばります

第1話

「ん~~~~・・・・どこだろこ」

今俺は森の中で絶賛迷子中・・・

「まあとりあえず、能力確認といきますか」

俺はまず大気中のベクトルを操作し、左手に風を乱回転するようにした。チャクラなしの所謂螺旋丸だ。

「おっし！でけた！やべえ・・・かなりテンション上がるわwww
」

それを木に向かって押し付けた
バンツツ！！！！ガーーーーードンツ！

「・・・やべえ威力・・・」

螺旋丸もどきを木に押し付けたら木の内側から壊れていき最終的に木そのものも回転しながら吹っ飛んでいった。

「じゃあつぎは砂鉄を集めてみますか」

右の手のひらを地面に向け、砂鉄が集まるイメージをする。集まったところで、その砂鉄が刀の形になるようにイメージをし、さらに微振動も加えるようにした。

「おお！なんかかつけな」

俺はわくわくが抑えきれずに木を切った。

スパツ・・・・・・・・ドン！

木が綺麗に切れて、しばらくしてから倒れ始めた。

「あんまり力入れてないのにこの切れ味・・・・・・・・ヤバｗｗｗｗニヤケ
がとまんねえｗｗｗｗ

あとはレールガンも試してみてえよな・・・コインコインっと」

俺は後ろのポケットに入っている財布を取り出しそこから500円
玉をだした。

「どおせここでは使えない通貨だしね・・・」

ピンツ・・・・・・・・・・ポーーーーーン!!!!!!!!!!!!!!

「ウホツｗｗｗｗｗｗｗｗやばいこれｗｗｗｗｗｗ
ゴホツ・・・さて、つぎは六式か・・・」

ためしたら全部すんなりできた。

「次は幻術なんだけどどうやって試そうかな・・・動物でもいいか
なべつに」

30分ほど動物を探すとイノシシを見つけた。俺は早速そのイノシ
シに幻術を掛けた。

「精神世界」

「ほお・・・ここが精神世界ね・・・」

目の前には棒に縛られているイノシシ

「さて、精神世界なんだからなんでも可能なんだよね。

んじゃ、俺を100人ぐらいにして、みんなに刀をもたせるか。
イタチのを見てやってみたかったんだよね」

俺はイノシシを囲むように100人に増えた。もちろん全員刀を持っている。

そして、3日間イノシシを刺し続けた。

「現実世界」

「うーん・・・多分3秒ぐらいしかたつてないよね？太陽の位置はあんまり変わってないし、周りも変化ないし・・・少なくとも3日間はおかしくなかったはず・・・」

まあとにかく！すべての能力確認完了！

結果！全部なんなく使えます！

あとは・・・俺今何歳なんだろう・・・見た目的に11歳だよな・・・

ナルトたちと同期になれるよな・・・

あ、でも親いないのにアカデミー入れるのかな・・・まあそこらへんはご都合主義でいいかな

おし！じゃあ早速アカデミーに入学しよ！転校生ってことのほうがいいよな

wwwもちろん始めからチート能力は使わないけどねwww

くアカデミーく

「おーいお前らあ席につけ」

イルカ先生がいつもど通りに教室に入っていく

「今日は転校生がいるぞ」

ワイワイガヤガヤ・・・

「静かにしろ！」

イルカ先生がどなる

「え？イルカ先生！転校生って本当？」

クラスメイトAが言う

「ああ本当だ。じゃあ橘くん、はいって」

ガラガラガラ

「橘マサヤです。一年間だけです。よろしくお願いします。」

俺は自己紹介をそつなくこなす。

まわりからは黄色い声も聞こえたりする。俺はそれを聞いてすこしニヤけてしまった。

「ゲフンゲフン」

「じゃあ橘くんは一番後ろの席に座ってね」

「はい、分かりましたイルカ先生」

一番後ろにはシカマル、チョウジにキバとシノ、ナルトとヒナタがいた。

「これからよろしくね」

俺はその6人に声をかけた

「おう！よろしくってばよ！」

「ああ、よろしく・・・ファアアア」

「・・・・・・よろしく」

「よろしく！」

「おう！」「わん！」「」

「よ、よろしく願いします・・・」

ナルト、シカマル、シノ、チョウジ、キバ、ヒナタの順に言ってきた

それから約1年。俺はほかのクラスメートとも仲良くし、成績も2位か3位どちらかをとっていた。

目立つことはあまりしないで、放課後にはこっそりと森の中で修行してたりした。

ぶっちゃけもう最強になったと思います。少なくとも負けはしません。もちろんベクトル操作のおかげで。

幻術もイタチと同等ですがイタチは視力を失うが俺はデメリット無し。どう考えても俺のほうが上。

もう最高です。

アカデミー卒業後のサバイバル演習が楽しみでなりません。

第1話（後書き）

第7班にむりやりにでもマサヤを入れます。

主人公設定（前書き）

今までもこれからも状況が理解できないかもしれないかもしれませんがほんとにすみません。

できるだけわかりやすく書くのであしからず

あとナルト本編はうるおばえなので忍術の名前とか有名なのしか覚えてません。すみません。

主人公設定

主人公

橘 雅也 たちばな まさや

年齢 12歳

性別 男

黒髪黒目

髪は少し長め

スベック

ベクトル操作

物理攻撃はすべて反射可能、風も操作可能、アクセラレーターは相手を出血させ、その血に触れなければ相手の血液を逆流できなかったと思うが、マサヤのベクトル操作は相手の皮膚に触るだけで逆流させることができる。よく使う攻撃は相手の重力のベクトルを操作し、重力を何倍にも増やす。これを利用して、自分の重力を上に向け空を飛ぶことも可能

レールガンのやつ

とあるのやつは一回しかみていなくてあんまり覚えてないのでレールガンのやつってなっていました。ごめんなさい。

いつもスロットのメダルを持ち歩いていつでもレールガン

をつてる。砂鉄刀、千鳥流みたいなやつ、ETC・・・思いついたらだしていきます。

六式

すべて使える。

幻術

イタチがカカシに使った幻術（精神世界につれてって刀で72時間だっけ？刺し続けるやつ）をデメリット無しで使える。ちなみに精神世界ではどんな武器も作り出すことが可能

チャクラ

下忍ぐらいのチャクラしかない。使える忍術は分身の術ぐらい。しかし、アカデミーの放課後にした修行でチャクラコントロールをマスター。

性格

誰にでも優しいが結構腹黒いし結構エロい

それに結構根に持つタイプ

顔はイケメン

ちなみにベクトル操作とか砂鉄刀は写輪眼でコピーは不可。本当は神にもらった能力なのでコピーができないのだが、一応ベクトル操作は結継限界で不可ということになっている、砂鉄刀は電気の操作が必要のためコピーしても修行しないと使えないようになっていくというので不可。ちなみに砂鉄刀の作り方はただの雷の性質変化しか使っていないことになっている。

主人公設定（後書き）

イタチの幻術の名前とか完璧忘れました。漫画読み直そうと思ったがどっかに片付けてしまっただけ。。。。

第2話（前書き）

いざ小説書こうってときになったらなかなかアイデアが思いつかなくなる・・・
文才がほしいな

第2話

卒業試験では原作通りナルトは不合格だった

ミズキがナルトを嵌めて禁術が書いてある巻物をもってこさせ、イルカ先生がナルトを守りなんやかんやらでナルトがミズキを多重影分身でボコボコにするイベントを終わらせた。

ナルトはイルカ先生から額当てをもらい一楽のラーメンをおごってもらいその日は終えた・・・

「なんで落ちこぼれがいるんだ？」

「昨日の試験に合格した奴だけが来るって知らないんじゃないの？」

「おーいドベ、お前は今日ここに来てくいていいんだぜ」

他のクラスメートからむかつくことが言われたナルト

「おお！ナルト！なんでお前きてんの？お前不合格だったじゃん」

俺は理由は知っていたがあえてナルトに言う

「マサヤ！そんなもん決まってるってばよ！俺が天才忍者だからだ
ってばよ」

ナルトは笑いながら言った

「ほんとに？w 実はちゃっかり合格したことにしてきてたりし
てww」

「そんなことしないってばよ！ちゃんとした俺の実力だ！」

俺とナルトは笑いながらイルカ先生が来るまで話した

さて、班割りはどうなるんだろうか…このクラス3人ずつ班を組ま
せたら一人余るんだよな…まあイレギュラーなんだから当然かもし
んないが

ああ…俺1人の班とか絶対嫌だよ？原作にあんま介入できないかも
しんないし、なにより女の子との接点がもてないということ！

まあ一応今もそれなりに少しはモテてるんだけど一応12歳だしね
w少し自重しようかなと……思ったりも…

でも1人になることは無いはず。俺の成績は2位か3位のどちらか
だから1人になるとした1位のサスケのはずだ。ああどんな班にな
るのか楽しみだなあ

それから俺はずっと考え事をしている間にイルカ先生は入ってきた
やっとなんか決まる！と内心ワクワクだ

「昨日の卒業試験、お前達良く頑張ったなあ。今日は連絡していた
ように三人一組の班を作るわけだが…既にそれは決まっているんだ
なこれが。」

「はあ！？」

「なんでそんな勝手に決めるんだよー！！」

「サスケくんとなりたかったのに」

「マサヤくん……」

俺は聞き逃さなかった

「にしても、あまいなあいつらも…ほんとに忍になるつもりあのかよ…」

「？マサヤ、なんか言ったか？」

「いや、それよりナルトは誰と一緒にの班になりたいんだ？」

「俺か？俺はサクラちゃんがいればだれでもいいってばよ！！あ、でもマサヤがいればもっといういかも」

「なるといいな…」

さて、原作を知っている俺だが、俺というイレギュラーが入ってどのように変わるのか見ものかもな。
まあ俺的にはあまり原作と変わらないんでほしいんだが…

「次！第7班！

春野サクラ、うずまきナルト、うちはサスケ、橘マサヤだ
そしてこの班の担当上忍ははたけカカシさんだ」

ザワザワ……

「先生！なんで第7班は4人なんですか？」

クラスの1人が質問した

「ああ実はこのクラスは1人余ってな…どの班に入れても良かったんだが班が均一になるように第7班に入れたんだ」

実はイルカ先生の私的な理由でもあった。ナルトとマサヤは仲がよかったからが7班に入れた理由の大半を占めていた。

次々に原作通りに班が決まっていた。

「ナルト、良かったな！デコや俺と一緒に班になれてあと、サスケも…」
ww

「ああ！やったってばよ！」

「こねえじゃねえかよ！俺らの担当上忍はよ！」

ナルトが叫ぶ

デコもサスケも少しいらしているようだ

サスケは貧乏ゆすり始めてるし…

俺はそんなことは始めから知っていたので一番後ろの長い机で仰向けになってカカシを待っている

遅刻するのは分かっていたがさすがに俺もイライラしはじめた

腹いせにデコの乳でももんでやるうとサクラの後ろに回り、だぐれだツ！といって胸に手を当てた

「ひっ！！」デコは突然のことで硬直した。3秒ほどたってから顔をこつちに向け、「なにすんのよ！！この変態！！」といいながグーで思いつきり頬をぶん殴ってきた

反射することもできたが攻撃を受けなきゃいけないときもあるのだちなみに殴られる前の3秒間はきちんと堪能した

「いいじゃんか減るもんじゃなし…」

ちなみに俺はデコは嫌いだ。じゃあなんでこんな事をしたのか、前は自重するとかいっていたが、やっぱり何度かは告白をされていた。まあ俺も女の子は好きだから付き合ったりもした。じつはもう経験済みだったりする。しかしやっぱ12歳やからそんなことすんのはあんまり良くないんじゃないかなあと思っただけ自重することにした。少しだけ

とりあえず、デコの乳を触ったのはただの嫌がらせだ

サスケにそれを見られ絶望気味のデコをみたら結構笑えたwこれが

みたかっただけだ

ナルトは待ちきれずに黒板消しのトラップを黒板にしかけた

普通上忍ならあんなトラップ気づくよな…気づかなかったとしても落ちてくるスピードがあんまり速くないから避けられるとおもっただけだな…

もしかして狙って引っかかったのかね…

俺はいいことを思いついた。

黒板消しが落ちるとき、黒板消しにかかっている重力の大きさを増やして何倍もの重さにすることだ

くカカシく

いつもながらマイペースにカカシは下忍の待つ教室に向かっていた

「（お？扉に黒板消しが

あんなみえみえの引っかかるわけじゃないじゃないか

まあみんなともすぐに仲よくなれるようにここは引っかかるべきか…）」

「ガラ…ドンッ！」

カカシの頭に直撃……カカシはかなりいたそうだ……

「ブッ」

俺はついつい笑ってしまった

「ちよっ！ナルト！あんた黒板消しに何したのよ！」

「え？なんもしてないってばよ」

「……………嫌いだ」

あれ？ お前たちの第一印象は 是？
嫌いだ しか言わないからちよつと怖い…
やりすぎたか……

第2話（後書き）

ああああ結構小説かくの大変ですね

自分の脳内妄想を文書化するのがこんなに大変だったとは・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8247q/>

ナルト 最強者

2011年7月15日18時31分発行